

Cuttings

植物園自然保護国際機構 (BGCI) • 季刊誌

2004年絶滅危惧種 レッドリスト発表

調査対象植物11種につき 8種が絶滅のおそれ

2004年11月にタイで開催された第3回世界自然保護会議で、国際自然保護連合世界生物種アセスメント(The World Conservation Union's Global Species Assessment)と2004年絶滅危惧種レッドリストが発表されました。今回の評価は、世界の生物多様性の状況に関する評価としてはこれまでで最も包括的なものであり、植物分野では針葉樹類とソテツ類に関する初の完全なアセスメントです。これらの分類群については、前者が25%、後者が50%の種に絶滅のおそれがあると評価されました。植物全体では、11,000種中8,000種以上が危険な状態に置かれているということになります。しかし評価の対象となったのは、今日、命名されている世界の植物種の3%にも満たず、なすべきことは今なお山積みです。



Plant Conservation: GSPC)におけるSSCの植物保全プログラムが果たす役割をまとめた概要文書によって、SSCの植物に関する実務に焦点が当てられました。

GSPCの2010年目標を留意しつつ、植物プログラム会議はレッドリストの掲載の効率化を促進するための方法を勧告しました。データ入力や分析のための種情報システム(Species Information System: SIS)の開発と普及は、それを大幅に促進するものと期待されています。レッドリストの掲載の拡大のための新たな活動には、GSPC上で重要な科のレッドリストの掲載を目指すSSCの計画などがあります。



IUCNレッドリストは、種の保存委員会(Species Survival Commission: SSC)の委員が集めた情報に基づいて作成されます。今回の会議では、ガラバゴス植物専門家グループや薬草専門家グループ、そしてプラントライフ・インターナショナルからの発表や、世界植物保全戦略(Global Strategy for

- 1a: インパチエンス・レトウゼイ (*Impatiens letouzeyi*) - カメルーン原産の絶滅危惧種 (Ben Pollard 王立キュー植物園)
 1b: ムティジア・マグニフィカ (*Mutisia magnifica*) - エクアドール原産の繊細なつる性植物 (Carmen Ulloa ミズーリ植物園)
 1c: オッシキュラム・オウランティアカム (*Ossiculum aurantiacum*) (カメルーン固有の絶滅危惧種のラン (Henk Beentje 王立キュー植物園))



ところでこの度、SSC植物プログラムの共同議長が、SSCの賞を受賞しました。議長の一人のマイク・モーンダー氏(フェアチャイルド熱帯植物園長)は優秀賞を受け、もう一人のデビッド・ギブン氏(クライストチャーチ植物園長)は、SSC最高の荣誉であるピーター・スコット卿自然保護貢献賞を受賞した4人の1人に選ばれました。

詳細: www.iucn.org
www.iucnredlist.org



BGCI

Plants for the Planet

.....
 主な記事: Cuttings日本へわたる — (3)・ウィーン植物園に欧州初のウォレマイ
 パイン — (4)・カメルーンの熱帯雨林で50種の新種植物を同定 — (5)・日本
 の野生植物種の復元 — (8) 今日・明日・永遠 — (9)



編集: Suzanne Sharrock

編集協力: Etelka Leadlay, Sarah Kneebone, Julia Willison

デザイン: John Morgan, Seascape
Email: studio@seasapedesign.fsnet.co.uk

日本語版
編集/監訳: 老川 順子
出版: (有)ジェイアソシエイツ

Cuttingsは、植物園自然保護国際機構 (Botanic Gardens Conservation International: BGCI) が出版している季刊誌 (年間4回) であり、BGCI会員 (個人・団体) へ配布される。会員資格は、BGCIの目的に賛同し活動を支援する個人、組織、団体すべてにある。(申込み用紙は15頁を参照)

詳細:

- 植物園自然保護国際機構
Botanic Gardens Conservation International, Descanso House, 199 Kew Road, Richmond, Surrey TW9 3BW UK. Tel: +44 (0)20 8332 5953, Fax: +44 (0)20 8332 5956 Email: info@bgci.org, www.bgci.org
- BGCI-ロシア, c/o Main Botanical Gardens, Botanicheskaya st., 4, Moscow 127276, Russia. Tel: +7 (095) 219 6160 / 5377, Fax: +7 (095) 218 0525, E-mail: seed@aha.ru, www.bgci.ru
- BGCI (米国) Inc., c/o Dan Shepherd, Director, 1000 Washington Avenue, Brooklyn, New York 11225-1099, U.S.A. Tel: +1 718 623 7200, Fax: +1 718 857 2430, Email: dan.shepherd@bgci.org, www.bgci.org/us
- BGCI-オランダ, c/o Utrecht University Botanic Gardens, P.O. Box 80162, NL-3508 TD, Netherlands. Tel: +31 30 253 2876, Fax: +31 30 253 5177, E-mail: l.j.w.vandenwollenberg@bio.uu.nl, www.bi.uu.nl/botgard
- BGCI-カナリー諸島, c/o Jardín Botánico Canario Viera y Clavijo, Apartado de Correos 14, Tafiira Alta 35017, Las Palmas de Gran Canaria, Gran Canaria, Spain. Tel: +34 928 21 95 80/82/83, Fax: +34 928 21 95 81, E-mail: jmlopez@grancanaria.es
- BGCI - 中国及び東南アジア, c/o Registry, Singapore Botanic Gardens, 1 Cluny Road, Singapore 259569. Email: Bian.Tan @bgci.org, Anle.Tieu@bgci.org, www.bgci.org/china
- BGCI-コロンビア, c/o Jardín Botánico de Bogotá, Jose Celestino Mutis, Av. No. 61-13 - A.A. 59887, Santa Fe de Bogotá, D.C., Colombia. Tel: +57 630 0949, Fax: +57 630 5075, E-mail: jardin@gaitana.interred.net.co, www.humboldt.org.co/jardinesdecolombia/html/la_red.htm
- BGCI-ドイツ, c/o Botanische Gärten der Universität Bonn, Meckenheimer Allee 171, 53115 Bonn, Germany. Tel: +49 2 2873 9055, Fax: +49 2 28731690 E-mail: biogart@uni-bonn.de

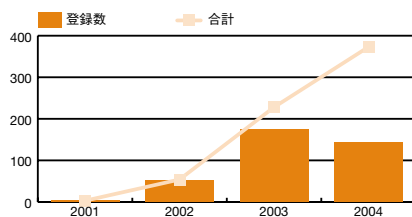
BGCIは、1987年に設立された会員制度の国際機関である。その目的は、植物保全に関する国際的なネットワークを組織立てることである。BGCIは、英国の独立した慈善団体 (登録番号1098834)、認定番号4673175を有する有限組織、さらに米国およびロシアの非課税対象の非営利団体(501(c)(3))である。

本誌掲載の見解は、BGCIの役員、職員、会員の個人的意見とは、必ずしも関係しない。

国際アジェンダ

「植物園の保全活動に対する国際アジェンダ」への現在までの登録植物園数は、78カ国の370以上に及び、これは保全へ取り組む植物園数の証としても意味される。下記の図は、登録数の増加を明らかに示している。登録園名簿は、BGCIのホームページ (WWW.brgi.org) に掲載されている。

国際アジェンダの登録数



日本の植物園と植物園協会

日本全国には総合植物園や薬用植物園など特定目的の植物園が多数あります。これらの植物園は来園者の植物に関する知識を高め、自然に親しむ心を養い、あわせて学術研究などに資するために運営されています。この内の代表的な植物園が結集して、日本植物園協会を作っています。

協会は1947年に結成され、1966年に政府公認の法人になりました。加盟している植物園は、現在、約130園です。



協会は植物園に関する調査研究、文献の収集、関連図書の発行、植物園と社会との情報交流など植物園事業の発展に関する業務を行っています。その組織は大学附属植物園、国や地域の植物園、私立植物園、薬用植物などの専門植物園の4部会に分かれています。協会内には諸事業を推進する委員会が設置され、植物園間の種苗交換、世界各国への学術調査隊派遣、各地での研修会や研究会の実施などを行い、植物園の充

実を図っています。また、海外から持ち込まれ、放棄された植物を加盟園で保護する他、海外との事業や交流も積極的に行っています。

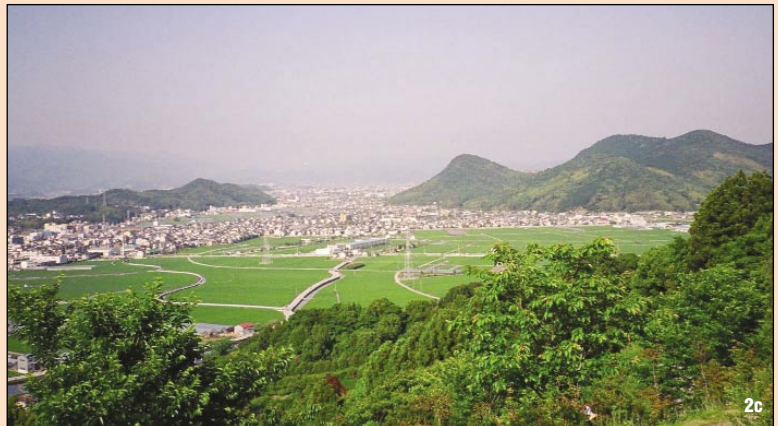
5月下旬には年次大会が行われ、加盟園で行われた多くの研究成果が発表されます。さらに、日本植物園協会誌や植物園ニュースなどの定期刊行物や各種の植物及び植物園に関する印刷物も発行しています。

詳細: <http://syokubutsuen-kyokai.jp>

2a: 美しく平穏な日本の庭園 (BGCI)

2b: 広島市植物公園 (日本植物園協会)

2c: 高知県立牧野植物園からの美しい眺め



締約国政府が高価な樹種の取引規制に合意

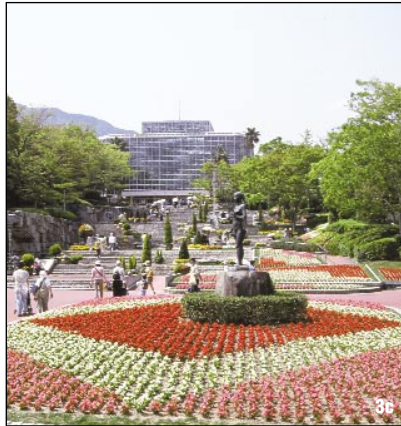
2004年10月2～14日にタイのバンコクで開催された絶滅のおそれのある野生の動植物種の国際取引に関する条約の第13回会議(CITES-CoP13)における合意により、あまり知られてはいないが森林生産物として木材に次いで高価とされる沈香と、アジアの熱帯の硬材であるラミンの世界的取引が規制されることになりました。

高級な香と香水の原料としての沈香(ジニコウ属(Aquilaria)あるいはギリノプス属(Gyrinops))の取引は、2,000年前から行われてきました。一方、高級木材のラミンは主に半完成もしくは完成木材製品の形で取引されています。ラミンは約30種のインドネシアとマレーシアを原産地とする樹木ゴニスチルス属(Gonystylus)から生産されます。これらの種をCITES附属書IIに掲載することにより、取引が合法で、かつ野生における種の存続に悪影響を与えないことを各国のCITES当局が認めた場合にのみ輸出が許可されることになります。また、ガガイモ科のホーディア属(Hoodia)の附属書IIへの掲載も合意されました。食欲抑制の作用を持ち、商品化の可能性がある活性因子がホーディア・ゴルドニー(Hoodia gordonii)という種などに見つかったために、今後、この種の取引が激増する可能性があるためです。

今回の会議によって、トウダイグサ属の様々な園芸品種や数種類のランの交雑種を含む植物の数が、CITES規制リストから外されることになりました。これは、これらの園芸品種の合法的な国際取引

に関する管理負担を軽減し、少ないCITES資金を非持続的な取引に集中的に投入できるようにするためです。

詳細：www.cites.org
www.traffic.org



Cuttings 日本へ渡る

BGCIは、HSBC(香港上海銀行金融グループ)の援助による「自然への投資」事業として、昨年から日本での活動を始めました。日本とBGCIの初めての結びつきを記念して、本号のCuttingsは日本特集としました。掲載された日本の植物園の興味深い活動の記事や日本植物園協会に関する情報は、国際的な植物園コミュニティの間で高い関心を集めることでしょう。さらにBGCIは、世界の植物園の最新情報を日本へ伝えたいと願い、本号を日本語版でも出版することにしました。より多くの日本の皆様に、興味をお持ちいただければ光栄です。

日本における「自然への投資」事業及び本号(日本語版)に関する問い合わせは、BGCI日本事業担当、老川順子(メールアドレス: Junko.Oikawa@bgci.org)まで。

3a: マレーシアのケラング港にて見つかった不法取引のラミン(TRAFFIC 東南アジア)

3b: ラミンを含む硬材を乗せた小型船を取り締まることは、今日、インドネシア、マレーシア、シンガポールのCITES施行当局が抱える大きな課題である(TRAFFIC 東南アジア)

3c: 広島市植物公園一帯やかな市内(日本植物園協会)

3d: 六甲高山植物園(兵庫県)



日本の絶滅危惧植物種が植物園内で保護

社団法人日本植物園協会の絶滅危惧植物対策委員会では、近年、協会加盟園が保有する日本産絶滅危惧植物種の保有状況調査を行いました。2003年2月、その結果をもとに「維管束植物レッドデータブック」(環境庁編)で「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」として掲載された1,835種類の中で、各園が保有している種類の全個体の詳細な情報を取りまとめたデータベースを作成しました。このデータは加盟園で共有し、調査や研究に活用されることでしょう。

アンケートの回答園が保有する日本産絶滅危惧植物種の総件数は3,730、種類数は695で「レッドデータブック」掲載種の約38%でした。日本の植物園での絶滅危惧植物の保全が遅れていることは明らかです。これらのうち242種類が1件のみで栽培されており、2件は148種類、3件は69種類でした。保存件数が3以下の種類は459で、協会加盟園が保有する695種類の約66%を占めます。一方、自生地由来の個体は1,103件で、加盟園が保有する総件数の約29%となる。各園の絶滅危惧植物種を系統保存している状態も、さまざまな問題をはらんでいることが浮き彫りにされました。現時点で保有していると言っても、多くの種類では基盤が危ういことを示しています。

また当調査によって、協会加盟園が保有している絶滅危惧種と、保有していない絶滅危惧種のリストを作成した。これは、日本の植物園が今後、日本に自生する絶滅危惧植物の保全を進めていく際の基準となるものである。なぜなら、保有していない種類が明らかになったことにより、優先して保全をすすめるべき対象をはっきり示すことができ、これらに続くプライオリティを置くべき保有件数の少ない種類も明らかになったからです。



日本とミャンマーの協力

ミャンマーにおける野生植物の保全活動



4a

中西部の町メイミョーには、国立カンダウジーガーデンがあります。ここには国中から収集されたランの野生種が保存されているが、今後資金面での援助が必要でしょう。さらに、植物資源の情報センターとして、将来的には国内に標本館を設立し、フロラ研究や植物保全活動の情報センターとする必要があり、そのためには人材育成も急務です。牧野植物園はそれらを援助する方針でフロラ計画を進めています。

ミャンマーは日本の約1.8倍の広大な国土をもち、南はアンダマン海に面する半島部から北は標高5881mの万年雪を冠するカカボラジ山まで、実に多種多様な気候帯が存在するためアジア屈指の植物が多様な地域として知られています。しかし、植物相の解析研究では、アジアで最も遅れている地域である。一方で盗伐や焼畑による植物資源の消失が懸念されています。

高知県立牧野植物園ではミャンマーの植物多様性研究をミャンマー林業省野生生物保護局との共同研究で進めています。植物の保全活動のためには、その国に存在する植物種の全容を明らかにすることが重要です。現在、全国に38カ所あるミャンマーの自然保護地域内の植物多様性解析調査のため毎年3回ほどの探検隊を出して標本資料の収集を実施しており、国立公園内の植物種のチェックリスト化や分布状況の調査を進めています。



4b

4a: マンダレー区メイミョー町にある国立カンダウジーガーデン (田中伸幸 高知県立牧野植物園)

4b: チン州のナトマ・タウン固有のロドデンドロン・クフェアナム (*Rhododendron cufeanum*) を調査する田中博士 (田中伸幸 高知県立牧野植物園)

4c: 駐オーストリア、デボラ・ストークス、オーストラリア大使とウィーン大学のマイケル・キーン博士 (R. Hromniak, Archiv HBV)



ウィーン植物園に 欧州初のウォレマイ パイン

2004年11月2日、オーストリアのウィーンで行われた贈呈式で、駐オーストリア、デボラ・ストークス、オーストラリア大使は、ウィーン植物園開園250年を記念して、同植物園にオーストラリア原産ウォレマイパインを贈呈しました。ウィーン植物園は欧州の植物園として初めてウォレマイパインを一般公開します。

ウォレマイパイン (*Wollemia nobilis*) は、植物の中で最も原始的で稀少な樹木の一つです。この種は2億年前から存在するものと推定されており、1994年にオーストラリアのシドニー近郊に位置するブルーマウンテンズ地域内のウォレマイ国立公園でニューサウスウェールズ州国立公園野生生物職員が偶然に発見するまでは、絶滅したものと考えられていました。ウォレマイパインの発見は、例えば今日、地球上で恐竜を発見することにも値するほど、植物関係では近代史上で最も重要な出来事の一つであると言われています。

詳細:

<http://www.botanik.univie.ac.at/hbv/english/hbv.htm>
www.wollemipine.com



4c

欧州植物保全目標の検討

2004年9月17～20日、プランタ・ヨーロッパとその提携団体や支援団体の計画のもと、スペインのバレンシアにあるバレンシア大学植物園主催により、第4回野生植物保全会議が開催されました。

この会議では、いくつかのワークショップで欧州植物保全戦略(EPCS)の目標について検討し、プランタ・ヨーロッパ事務局に提出された報告書に基づき、目標実施の進捗状況を評価しました。また、欧州における目標が植物の保全及びGSPCにいかなる貢献を果たすかという観点からの分析も行なわれました。これらの協議の結果、一部の目標の適用範囲を修正し、抜けている点に関しては新しい目標が定められました。一連のワークショップの最後に、新たに合意された改訂版の戦略計画が発表されました。GSPCならびにEPCSに関する各国のフォーカルポイント(代表)を指定及び/または支援するための協力的な努力が必要であるなど、EPCSとGSPCの実施を促進するための新たな各種活動項目について合意がなされました。

詳細：

www.nerium.net/plantaeuropa/main.htm

5a: プランタ・ヨーロッパ会議の参加者
(Sergi Pitarch)

5b: インパチエンス・フリチー (Impatiens frithii)
(Martin Cheek 王立キュー植物園)

5c: コフェア・モンテクペンシス
(Coffea montekupensis) -
カメルーンで、最近、発見
されたコーヒーの仲間
(Martin Cheek 王立キュー植物園)



カメルーンの熱帯雨林で50種の新種植物を同定

熱帯雨林はすさまじい速さで姿を消しており、そこに生息する種を科学者が発見する前に森林自体が消えてしまうことも多くあります。しかし、カメルーンの熱帯雨林の保全においては幸運にも、1993年以來、アースウォッチのボランティアたちの手を借りて、50種に及ぶ新種の植物と菌類が発見されています。

300人を超えるアースウォッチのボランティアとアフリカの特別研究員たちが、英国キュー王立植物園の植物学者を助け、カメルーン西部の低地、山地森林、草原の植物の多様性の調査を行ってきました。それらの新種の内訳は、山に自生する親指の爪ほどの大きさしかない一年草の水草から熱帯雨林内の巨大な林冠木まで様々で、その中には、新種のコーヒー3種、ラン4種、ツリフネソウ属2種、黒檀1種なども含まれます。

「これら新種の大部分は分布域が狭いため、世界的に絶滅の危機に直面しており、保全という意味で重要だ。例えばクベア属(Kupea)という種は2つの狭い場所にしか分布せず、面積は合計20平米にすぎない。」と、同事業の中心的な研究員の1人であるマーティン・チーク博士は語ります。

参加チームは、カメルーン国立植物標本館の植物学者と共同で、チーク博士とその同僚たちを助けながら、豊かな生物多様性に恵まれたこれらの森林の調査を続けています。彼らがカメルーン西部から採集した植物の個体数は、今日では約3万株に及び、この数値はこれまでに目録



化されてあった合計数のほぼ50パーセントに相当します。ラプトペタルム・ゲオフィラックス (Rhaptopetalum geophylax) という新種の学名は、アースウォッチの貢献を称えてつけられた。また、ツリフネソウ属の真っ赤な花をつけるインパチエンス・フリチー (Impatiens frithii) には、発見者であるアースウォッチのボランティア、マシュー・プリスの名前がついている。



この調査のかなりの部分が英国政府のダーウィン計画 (Darwin Initiative) から資金援助を受けて実施されており、英国王立キュー植物園から刊行予定の、クッペ山、マネングバ山、バコシ山に関する保全チェックリストと、バリンゲンバ森林保護区に関する保全チェックリストに、その内容が詳しく記載されることになっている。

詳細：www.earthwatch.org/europe
www.kew.org/scihort/wta/
www.kewbooks.com

アースウォッチは国際非営利団体で、野外研究調査で有名な科学者や研究者と共に作業するというまたとない機会を一般の人々に提供するという形で、自然科学分野における世界の野外研究調査を支援している。同団体の目標は、世界中の人々に自然科学の野外研究ならびに教育に参加してもらい、持続的な環境に必要な理解と活動を促進することである。



日本における野生植物の危機

日本の維管束植物のレッドリストは1997年に公表、2000年にレッドデータブックとして出版されています。その為の調査は、1993年より日本植物分類学会に依頼して実施されました。日本産野生維管束植物は約7,000とされるが、うち2,100種(種、亜種、及び変種)を対象とし、調査協力者(全国で約400人)に調査を依頼しました。調査協力者所有の既存データ等(個人の長年にわたる貴重なデータをボランティアで提供)を活用しつつ、種毎に現存個体数及び減少率をメッシュ情報として収集、整理し、評価を行いました。

結果として1997年に公表されたリストは、日本の野生植物の置かれた厳しい状況を如実に浮き彫りにするものでした。既に20種が絶滅し、5種が野生絶滅し、日本産維管束植物の約24%に当たる1,665種に絶滅のおそれがあると判定されました。その内訳は、絶滅危惧Ⅰ類1044、Ⅱ類621、さらに準絶滅危惧として145、情報不足が52でした。

減少要因の上位4つは、開発行為、園芸採取、自然遷移及び森林伐採でした。自然遷移は草原や二次林の利用形態の変化(肥料や薪炭の為の伝統的な利用形態としての下草刈りや定期的な伐採の減退)によるものです。

種の保存法は1993年より施行されています。同法に基づく希少野生動植物種(採取が禁止される)として、植物では19種指定されています。これら19種のうち、12種については繁殖の促進、生育地の整備その他指定種の保存を図るための事業である保護増殖事業が実施されています。

環境省は、これまでの取組みに加え、さらに植物園協会や在野を含む研究者からも協力を依頼して、生物多様性の根幹部分である植物の保全に取り組んでいきたいと考えています。なお、改訂版レッドリストについては2006年内の公表を目指し作業を進めています。

問い合わせ：環境省 自然環境局 野生生物課 (Tel: 03-3581-3351 担当: 曾宮)

日本植物画倶楽部が植物保全を支援

植物保全は植物学者だけの問題ではありません。日本の野生植物の保全を積極的に奨励している日本の芸術家達がいます。古くから日本では、野生植物が人々の日常生活と深く結びつき、その美しさは伝統的に、芸術、特に絵画の中で表現されてきました。

1991年に数名の植物画愛好者によって設立された日本植物画倶楽部は、今日、全国に400名の会員を有し、国内外の植物園や植物学者と密接な関係を発展させながら活動を続けています。

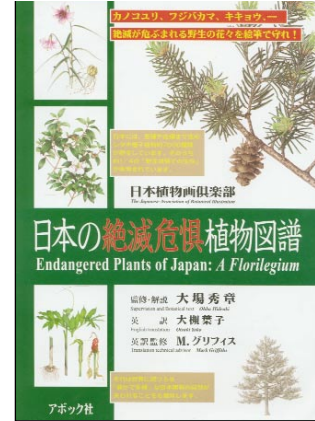
日本の野生植物が置かれた状況とそれらの保全の必要性への認識を自らが高めると共に、それを一般市民へも広めるようにと、会員の間では日本の絶滅危惧植物を描くことに力が注がれてきました。1998年から始められた「日本の絶滅危惧植物」と題する展示会は、これまでに13回、開催されました。さらに倶楽部の設立10周年を記念して、182点の作品を一冊にまとめた「日本の絶滅危惧植物図譜」が、最近、出版されました。

2005年も日本植物画倶楽部の“保全”活動は続けられます。4月から11月までの8カ月間、BGCIの日本における「自然への投資」事業である巡回展の特別展示として、会員の作品が日本全国を横断する予定です。また、アメリカでの巡回展(3月~6月:国立樹木園、8月~10月:シカゴ植物園)も企画されており、当倶楽部への期待は国際的にも高まっています。

詳細: www.art-hana.jp

問い合わせ:
日本植物画倶楽部 石川美枝子
メールアドレス:
mieko.i@mbi.nifty.com

BGCI 日本事業担当 老川順子
メールアドレス:
Junko.Oikawa@bgci.org



フランスで植物園教育担当者の会議が開催

2004年9月21~23日、フランスのプレスト国立温室園で、フランスならびにフランス語圏諸国の植物園ネットワークの教育担当者の会議が開催されました。この会議には25団体の代表者約30名が出席しました。会議では次の2点の議題を中心に討論が行われました。

- 身体に障害を持つ来園者向けの設備
- 植物園教育の補足としてのお話し会

出席者が特に強調したのは、身体能力の有無にかかわらず、植物園を可能な限り誰もが利用できるようにする必要性でした。その実践としては、簡単な方法もあります。例えば、視覚に障害を持つ人のために読みやすいよう白黒(またはコントラストの強い色)で書いた標識を設置することや、車椅子の人だけでなく乳母車を引く人にも便利のようにスロープを設けることなどです。目隠しで視覚障害の様々な段階を模擬的に体験するワークショップは、特に参加者の間で好評でした。

問い合わせ:
Patrick Péron, Groupe Education du réau JBF
メールアドレス:
animation@cbnbrest.com

6a: 野生植物の保全において重要な役割を果たす日本の植物園 (BGCI)

6b: フランスで行われた教育者対象のワークショップにて、視覚障害を模擬的に体験する参加者 (プレスト国立温室園)





カリブ海諸国の植物園にハリケーン被害

2004年のカリブ海のハリケーンシーズンは特に災害が多く、同地域内の植物園2カ所が被害を受けました。グランドケイマンでは、クイーン・エリザベスII世植物公園の植物コレクションが、歴史上6番目の大きさのハリケーン・アイヴァンにより大きな被害を受けました。同公園の職員とその家族から死傷者は出なかったものの、多くの職員が家屋を失ったり損傷を受けたりしました。建物などの修理や植物の植え直しの作業が続いているものの、資金には限界があり、公園を再開できるまでには最低1年はかかる見通しです。

詳細:

www.bgci.org/botanic_gardens/grandcayman.html

一方、南フロリダを直撃したハリケーン・フランシスの影響で、フェアチャイルド熱帯植物園は、園内の絶滅のおそれのあるソテツ科植物が盗まれる、という重大な事件にありました。ハリケーンが近づいたため、フェアチャイルドは一時閉鎖されましたが、その間に犯行者グループは植物園に侵入し、絶滅のおそれのある植物(ソテツ科20種)30個体以上を盗みました。その中には、同植物園が数十年も育ててきた古い株も含まれていた。この事件は、世界のソテツ研究ならびに保全分野にとって、非常に大きな打撃となりました。中にはかけがえのない個体もあったといえます。

詳細: www.fairchildgarden.org



ダライ・ラマがメキシコの植物園を「ピースゾーン(平和の地)」に選定

チベット仏教の精神的指導者であるダライ・ラマ師が、最近、メキシコを訪問された際、国内の様々な場所に「ピースゾーン(平和の地)」と名づけ、グアナフアント、サンミゲルデアジェンデにあるエルチャルコ・デル・インヘニオ植物園もその1つに選ばれました。

「ピースゾーン」の指定はメキシコ人権平和協会(AMPAD)による事業です。エルチャルコ・デル・インヘニオは、絶滅のおそれのあるメキシコ原産植物の保全を専門とする植物園です。総面積100ヘクタールを超える同園は、環境保全と平和を推進する教育センターとしての活動も活発に行っています。また同園は、サンミゲルデアジェンデの人々にとって、レクリエーションや式典の場としても重要です。エルチャルコ・デル・インヘニオの運営責任者らは、ダライ・ラマから与えられた責任に誇りを持ち、同園の「ピースゾーン」指定を喜んで承認しました。



7a: ハリケーン・アイヴァン後のグランドケイマン・クイーン・エリザベスII世植物公園(John Binns)

7b: 特徴的な果実をつけるソテツ(フェアチャイルド熱帯植物園)

7c: アスター・ヴィアリス(Aster vialis)ーリンドナー絶滅危惧野生生物保全研究センターで、初期に繁殖されたCPC掲載の一種(ヴァレリー・ペンス)

英国の生物多様性の宝庫は池

それ自体の魅力と保全という観点で重要性が強調されるといわれる「池」。しかし英国では、過去100年間に国内の池の70%以上が姿を消しました。英国アイルランド植物コレクションネットワーク・プラントネット(PlantNet)が主催した最近の会議では、水生園の管理と維持の特有な問題と楽しみについて協議しました。

同会議は、参加者に対し、維持する魚類やアヒルの数量及び斬新な雑草防除法

を含む共通の問題に対する解決策を見つける機会を提供しました。会議では、水生園の管理に関する物理的環境と実務、生物多様性の問題、栽培技術などに関する発表が行われました。水生園には特有の管理上の問題があるものの、出席者の間では、来園者特に子どもを引きつけ感銘させるという潜在的効果など、湖や池の美点が強調されました。

問い合わせ: Judith Cheney, PlantNet(メールアドレス: jc151@cam.ac.uk)

シンシナティ動物園が米国植物保全センター(CPC)への参加に招請

シンシナティ動物園は、アメリカ原産植物相の絶滅防止を専門とする全国組織である米国植物保全センター(CPC)の正式参加機関になるよう招請されました。「植物保全センターの植物園ネットワークの一員になるということは、

シンシナティ動物園にとって大きな前進であり、地域と国の絶滅のおそれのある植物相を守るという我々の献身をさらに具体化するという意味を持つ」と、リンドナー絶滅危惧野生生物保全研究センター(CREW)植物部門のペンス植物研究部長は語ります。

国際的に高い評価を受けているCREWの植物研究プログラムは、パイオニアである試験管内での植物収集技術であり、また、絶滅のおそれのある種の繁殖と低温保存に関する研究でも知られています。植物保全センターは、シンシナティ動物園に対して「自然保護に対する長年の献身」と「素晴らしく統合された植物園作りという点での将来の潜在的可能性に関する意気込み」を称賛しました。

詳細:

www.centerforplantconservation.org
www.cincinnati.zoo.org



日本での野生植物種の復元

東京大学付属植物園における 小笠原諸島の絶滅を危惧する 固有植物の植え戻し活動



父島と母島に代表される小笠原諸島は、東京から約1,000キロメートル離れた太平洋に浮かびます。ここにはおよそ400種の維管束植物が生育し、その中の150種余りが固有種です。日本のレッドリストには、そのうちの2種が絶滅、45種が絶滅危惧IA類、32種が絶滅危惧IB類にリストされています。

1983年、東京大学付属植物園では、小笠原諸島の絶滅危惧種12種について自生地における植生を回復させるための復元植栽を目的に、これらの種の栽培下における保全事業を開始しました。これらの種の一例には、当時、野生では父島に一株だけが残るとされたムニンノボタン (*Melastoma tetramerum*) があります。植物園では、野生株からの挿し木や同系交配で得られた種子を利用して個体数を増やした。しかし1995年にはその野生株が

枯れ、その後は、残った若苗からの種子による増殖が行われました。それらを利用して父島での植え戻し作業が続けられて10年、今では約300株が野生で生育しているとのこと。母島の固有種であるムニンツツジ (*Rhododendron boninense*) は、もう一つの成功例です。

今日、東京大学付属植物園では、およそ90種の小笠原諸島固有植物を栽培下で保全しています。自生地における自然植生の回復、あるいは少なくとも個々が小笠原で生存するために、それらの多くは今でも助けを求めているのです。



トルコの植物園の 今後

先日、「ネザーハット・ギョクイイト植物園の今後」と題したワークショップが、英国王立エジンバラ植物園のデイビッド・レイ氏とイアン・ヘッジ氏、英国王立キュー植物園のナイジェル・テイラー氏、スウェーデンのイエテボリからアーネ・ストリド女氏をゲストスピーカーに迎えて開催されました。参加者は、同植物園のために積極的に活動している人々を含めた30名以上に及びました。ワークショップの一環として、カラジャ樹木園では、繁殖施設と主に木本類の見事なコレクションを見学し、トルコ黒海地方のボル県では周辺地域の原生林と自然生息地を見学しました。

ワークショップでは、イスタンブールの交通量の多い交差点で1年前に開園したこの植物園に関し、基本計画の原案がまとめられ、2004年7月に、ANG財団のニハット・ギョクイイト会長と同植物園のアディル・ギュネル園長がそれに署名をしました。この原案は、5年毎に見直しをしつつ土地賃貸が終了する2025年まで、ネザーハット・ギョクイイト植物園の発展の基礎として使われます。

ワークショップは有意義な内容で成功を収め、様々な観点からネザーハット・ギョクイイト植物園の今後について幅広い討議を行う素晴らしい機会となりました。長い歴史を持つ植物園で得た経験から学ぶ機会が与えられたという点でも、大変好評だったということです。結果として、同植物園の将来について明確な戦略が構築され、基本計画のいくつかの項目についてはすでに実施されているか、または計画が進められています。

8a: 父島にて子供達が参加して行われたムニンノボタン (*Melastoma tetramerum*) の植え戻し作業 (平井一則 東京大学大学院理学系研究科附属植物園)

8b: ムニンツツジ (*Rhododendron boninense*) (平井一則 東京大学大学院理学系研究科附属植物園)

8c: イスタンブールで開催されたワークショップの参加者 (Necmi Aksoy)

英国(サンダーランド)で 教育担当者の会議

2004年度の英国植物園教育ネットワーク(BGEN)年次総会のテーマは「学習への導入(Ways into Learning)」でした。同会議には、全国の植物園、博物館、動物園、ナショナルトラスト団体、その他関連組織から60名を超える代表が参加しました。4日間にわたるプログラムの中では、基調講演、ワークショップ、ポスター発表、園内の展示を見るための現場視察が行われました。BGCIのジュリア・ウィルソンとサラ・ニーボーンは、口頭発表の他、教育を通じたGSPCの実施をテーマとしたワークショップを行いました。参加者は、各々がGSPCの各目標とそれらにいかに関与しているかを紹介し、植物保全に対する一般市民の意識を向上させるためにはどのような協力が可能かについて話し合いました。結果として、共同キャンペーンの実施、全国的な「植物園の日」の設定、GSPCの目標14に関する全国会議の開催、政府に対する働きかけ活動などの考案が提示されました。この考案は文書にまとめて、討議資料としてBGENに参加している全団体に回覧する計画です。

問い合わせ：Erica Bower, BGEN Co-ordinator
メールアドレス：bgen@kew.org



9a

今日・明日・永遠

2004年11月4～5日、北米全土と英国の植物園、動物園、水族館、自然センターから教育担当者がアメリカのニューヨークで一堂に会し、まもなく開始する「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関する意見交換とその関与についての計画立案を行いました。「今日・明日・永遠：“持続可能な開発のための教育の10年間”における生き物の施設(Living



9b

Institutions)が果たす役割」と題した同会議は、野生生物保護協会の後援と主催によりブロンクス動物園で開催されました。国際連合は2005年から2014年を持続可能な開発のための教育の10年間と宣言し、「環境の保全と保護」をこの10年の中心テーマの1つに掲げています。

2日間の会議の中では、「米国とアフリカにおける持続可能性に関する教育の関わり」「動物園、水族館、植物園間の継続したコミュニケーション」「生き物の施設における持続可能な運営方法のモデル」「米国植物園における持続可能な開発教育」などのトピックに焦点を絞った40以上のセッションが行われました。

詳細：<http://bronxzoo.com/bz-education/2338355>
http://portal.unesco.org/education/en/ev.php-url_id=27234&url_do=do_topic&url_section=201.html

ジュネーブ植物園100周年記念祝賀会

2004年9月25～26日、スイスのジュネーブ植物園は現在地での開園100周年を迎えました。これを記念し同園では、サーカス、音楽、演劇などを中心に幅広い分野の様々な催し物が行われました。またこの機会に合わせて「植物学者一黒いエーデルワイスを探して」という題名のコミック雑誌も出版されました。イラスト入りのこの本は、長寿の源といわれるエキスがあるヒマラヤに咲く稀少な伝説の植物の黒いエーデルワイスを探すとという夢物語を織り込みながら、ジュネーブ植物園の植物学に関する歴史を追っています。

詳細：www.ville-ge.ch/cjb

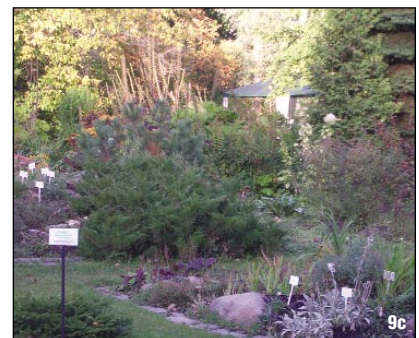
トベリ植物園125周年記念祝賀会

2004年9月19～22日、ロシアのトベリ州立大学付属植物園の主催で「調和した生活：植物園と社会」という国際会議が開催されました。この会議は同植物園の125周年を記念して開催され、英国、米国、ポーランド、クロアチア、エストニア、ロシアから70名以上が参加しました。会議では、植物園は周辺地域社会の生活のほぼあらゆる局面に影響を与え、自然と人間社会を結ぶものとして重要な役割を果たすことができるということが強調されました。BGCI事務局長のピーター・ワイズー・ジャクソンから当植物園のユーリ・ナウムツェフ園長に「植物園の保全活動に対する国際アジェンダ」への参加に対する謝意を表す盾が贈られました。トベリ州立大学付属植物園は、ロシアでこの盾を受けた最初の植物園です。

9a: サンダーランドにて開催されたBGEN会議の、お話し会についてのワークショップで、徐々に創作的になる参加者(BGCI)

9b: 「今日・明日・永遠」会議の参加者(S. Bolduc (c) WCS)

9c: トベリ州立大学付属植物園(BGCI)



9c

BGCI事務局だより

BGCI米国教育部門 責任者を新採用



BGCI米国に、ブライアン・ジョンソンが教育部門の責任者として新しく加わりました。彼は、マサチューセッツ州ケンブリッジのレスリー大学オーデュボン野外調査研究所の上級研究員、ニューヨーク・ブルックリンのプロスペクト公園支援協会ならびにプロスペクト公園

オーデュボンセンターのプログラム担当ディレクター補佐を歴任し、これまでは、アリゾナ南部のソラ砂漠やハワイの熱帯雨林など多様な生態系に関する環境や自然保護教育の野外研究を中心とする大学や大学院コースの教育を担当してきました。専門分野は環境教育(環境教育専攻理学修士、ジャーナリズム専攻理学学士)です。

BGCIロシア 新事務局長の就任



BGCIロシアでは、ニキータ・メルゲロフを新事務局長として迎えました。彼は、2002年にモスクワ州立大学土壌科学科を卒業し、その後は欧州とロシア国内アジア地域のツンドラならびにタイガの生態系を研究する様々な野外調査に参加してきました。今後はBGCIモスクワ事務所に籍を置き、ワークショップの主催と重要文書のロシア語への翻訳を担当します。さらに、ロシアと旧ソ連諸国の全植物園とその他の植物関係機関に配布するBGCIロシア植物園協議会ニュースレターの発行も担当します。

ロシア式環境教育！

2004年11月、ロシアのアルハンゲリスクで、植物園における教育に関する3日間集中講座が開催されました。英国文化振興会の資金援助を受け、ソロヴェツキー諸島植物園に生物多様性保全センターを開設するために設けられた小規模環境事業制度(SEPS)の一環として行われたこ



の講座には、ロシア西部の各地から植物学者、教育者、施設管理者が参加しました。また、現地のボムル州立大学の学生、モスクワ薬草園のアルチョム・バルシン氏に加え、現地の樹木園である北部林業研究所からも多数が参加しました。英国王立キュー植物園のゲイル・ブロムリー女史とBGCI教育担当者のサラ・ニーボーンが司会進行役を務め、植物園での教育、教育対象者の分析、展示解説法、セルフガイドの経路設計、自然環境下における学校教育などに関する一連のワークショップが行われました。この教育コースは、ボムル州立大学植物学/植物生態学部のエレナ・シャヴリナ女史が主催する生態学教育会議の一部として行われました。

バルカン植物園での実 力強化ワークショップ

2004年11月、BGCIが主催したギリシャでの園芸実習ワークショップに英国のケンブリッジ大学附属植物園のロブ・ブレット氏とピート・アトキンソン氏が参加し、交流を交わしました。クルーシアに新設されたバルカン植物園の職員が参加者であったこのワークショップは、ランの繁殖から病気の予防や球根栽培まで幅広い内容のものでした。また、植物園の果たす役割や、特に種子バンクと収集植物の記録に焦点を当てながら他の植

物園の活動の現状についても検討されました。

ギリシャ国立農業研究財団・花卉研究室のエレーニ・マロウバ研究室長は、さらに植物園の管理と教育への応用に関するコースを追加し、バルカン植物園職員の実施能力の強化に励む意向です。今回のワークショップを通じてバルカンとケンブリッジの植物園は、互いの知識と経験を共有し合うだけでなく、両園の間に強い友好関係を築くことができました。

南インドの熱帯乾燥 常緑林の保全

BGCIのインドにおける「自然への投資」事業の一環として、オーロヴィル植物園では、熱帯乾燥常緑林植物相(TDEF)の絶滅のおそれのある種に対する保全活動が行われています。同植物園は、タミール・ナードゥ州のオーロヴィルの所在地とインド東海岸のボンディチェリーの間に位置します。保全対象はTDEFの種であり、その中の223種はこの特有な森林タイプにおいて不可欠である多年草であることが知られています。さらにその内の45種は自然環境において絶滅の危機に



直面しており、中には1カ所にしか生息しない種もあります。対策として特に重視しているのは、この森林タイプでは最も危険性の高いランと球根類の自生地への植え戻しです。

10a/b: ロシアのアルハンゲリスクで開催された教育ワークショップにて、セルフガイドの経路を設計 (BGCI)

10c: ギリシャのバルカン植物園で、繁殖技術について探求し合う (Rob Brett, ケンブリッジ大学附属植物園)



11a

この事業の目的は、同植物園内の養生設備の整備をして実生苗の生産技術を強化し、園内及び園が関与する保全事業の両方に利用できるようにすることです。事業は1年間続けられ、その終了時には、養生施設での生産能力はかつての4倍、実際の生産量は2倍に拡大するものと期待されています。

当事業はインドにおける「自然への投資」事業の一環であり、HSBCからの助成によって行われています。

「自然への投資」(Investing in Nature)とは、香港上海銀行金融グループ(HSBC)が出資し、BGCI、アースウォッチ、世界野生保護基金(WWF)の協力による5,000万ドル規模、5年計画の環境パートナーシップ事業である。

詳細：www.hsbc.com/investinginnature

インドで情報管理ワークショップ開催

2004年9月6～9日、インドの国立植物学研究所(NBRI)とBGCIは、インド植物園ネットワーク参加団体を対象に、4日間に渡る植物コレクションのデータベースに関するワークショップを開催しました。ラクナウで開催されたこのワークショップには、インド各地の植物園から約25人の代表が参加した。主催者のステルシャン・クマール博士とP・プシュバンガダン博士に加え、講演者として地球規模生物多様性情報機構(Global Biodiversity Information Facility: GBIF)のジム・エドワーズ博士とBGCIのマーク・リチャードソン及びジェイミー・オコンネルが参加しました。

この4日間のワークショップでは、情報の効率的かつ効果的管理の必要性に焦点を絞り、「収集植物に関する情報を維持する理由」「利用とメリットの共有」「データベース開発方法」「標識の解説情報などの教育用データ」などの課題についての発表が行われました。

クマール博士と彼の仲間は、インドの国立の(植物)園のデータベースと植物データベースのデモンストレーションを行い、会議参加者がいかにこれらに寄与できるかを説明しました。BGCIのジェイミー・オコンネルは、BGCIが独自に開発したMS-Windowsのデータベースプログラム(Access)を主体とした無料の植物園向けデータベース(BGRecorder)と、インターネット上での植物園と植物に関するデータベースのデモンストレーションを行いました。そしてGSPCの目標達成に向けて、それらの技術の有用性を紹介しました。

当ワークショップは、HSBCのインドにおける「自然への投資」事業の援助によって実施されました。



11b

中国でのワークショップ「理論から実践へ」

2004年11月15～18日、中国の深圳の仙湖植物園で、第5回中国全国植物園生物多様性ワークショップが開催され、中国の22の植物園から80名の植物園職員が「植物保全：理論から実践へ」をテーマとする実習ワークショップに参加しました。

講演者と参加者は、中国本土、香港、台湾、オーストラリア、米国の植物園職員が中心でした。講演では、統合的保全、園内の植物コレクションに関する方針、コレクションの管理、環境の展示解説など、植物保全に関する事例研究や実践例が紹介されました。また、BGCI出版のダーウィン・テクニカル・マニュアル(植物園の管理運営に関する専門手引書)の中国版(翻訳Jin他、2004年発行)と、BGRecorderの中国版(翻訳Lin、2004年発行)が、このワークショップで初めて公表された。



11c



11d

当ワークショップは、HSBCの中国における「自然への投資」事業、仙湖植物園、及び深圳都市管理局の援助によって行われました。

11a: オーロヴィル・ラン室 (BGCI)

11b: インド植物園ネットワークワークショップの参加者 (BGCI)

11c: 深圳で開催された第二回中国花の博覧会 (BGCI)

11d: 仙湖植物園のソテツ保全センター (BGCI)

インドネシア原産植物がチボダス植物園を第2の故郷に



チボダス植物園近郊の山地森林で最近行った調査により、80種の野生植物が採集されました。同植物園職員6名と地元森林局の係官1名がこの調査に参加し、植物園のコレクションにはない原種を探しました。この調査の成果として、同植物園で栽培される野生起源の原種の登録数が増加し、栽培下における保全及び園内の



植物コレクションの教育的価値の強化に役立ちました。

当ワークショップは、HSBCのインドネシアにおける「自然への投資」事業の援助によって行われました。

12a: トウ(籐)の果実 (BGCI)

12b: プルヌス・アーボレア(Prunus arborea)の実生苗の鉢上げ (BGCI)

12c: 食肉植物のウツボカズラ(Nepenthes)のコレクション (BGCI)

BGCIアフリカ助成金の保全事業決定

アフリカにおける「自然への投資」事業の一環として、BGCIアフリカ助成金制度の第1回助成先が決定しました。今回、選ばれたのは下記の5件の事業で、中には地元地域社会と共同で進められる事業も含まれています。

- ・アプリ植物園による伝統的な信仰治療家と協力して行う薬草の保全と収穫の改善
- ・リンベ植物園による価値も栄養も高い緑野菜であるエル(ネタム属(Gnetum))の野生採取への圧力軽減を目的とした地域社会に根ざした養生施設の建設
- ・ボツワナ国立植物園によるデータ不足の5種の固有種の分布と危険要因に対するより深い理解を目的とした保全状態の調査
- ・ナイロビ植物園によるタイタ山地の地域社会と協力して行うミレチア・オブラテ(Millettia oblate)の野生個体群の回復及び保全
- ・セイシェル国立植物園による絶滅のおそれのある3種の栽培下コレクションでの確保、及び生態系復元、野生への補充や植え戻しのための個体の充実化

2005年度のBGCIアフリカ助成金の申請に関する詳細は、近日中にBGCIアフリカのホームページ(www.bgci.org/africa)に掲載予定です。

インドネシアの教師らが環境ゲームを学習

インドネシアにおける「自然への投資」事業として行われた第3回教員実習コースに、43名の生物教師が参加しました。このコースは2004年9月6~8日にボゴール植物園で開催されました。

教師のほぼ全員が、同植物園へは生徒と共に来園した経験があったものの、植物園の機能や自然保護ならびに教育における役割については、大半の教師が全く理解をしていなかったことが明らかになりました。くだけた形の実習セッションと環境ゲームへの参加を通じて、教師たちの間でのネットワーク作りと情報交換、さらにそこに参加したNGOとの協力を呼びかけました。リンバワン・ムダ・イ





13a



13b

インドネシアというNGOは、子ども向け環境教育に焦点を絞った団体として知られ、コース中に行われたワークショップでは、子ども向けのゲームに関する講座を行いました。一方、生物多様性の保全に焦点を絞ったクラブ・インドネシア・ヒジャウというNGOは、植物園の園内ガイドの間に、バードウォッチングに関する指導を行いました。

ブラジルの植物園の強化

植物園の保全戦略に関するワークショップの実施後、ブラジル北東部の5つの植物園がブラジル植物園行動計画の主要目標の達成を目指して、それぞれの実施能力を強化するために互いに協力することに合意しました。

2004年10月4～8日、ブラジルのサルバドルで、ブラジル北東部にある5つの植物



13c

園の職員による会議が行われました。ブラジル植物園行動計画の中心目標の達成に向けて、各植物園で可能な範囲について話し合い、主な制約事項が認識されました。共通の関心事である活動の発展と資金調達を目的として、パートナーとスポンサーを見つける作業を行うという点に、参加者は全体としても個人としても合意しました。さらに同地域の植物園の間で優先される事業のための「事業バンク」を作り、出資援助を申請できるようにすることも合意されました。

このワークショップは、COELBA、サルバドル市当局の衛生局、都市基盤整備局、公園/植物園管理局、及びブラジルにおけるHSBCの「自然への投資」事業の援助を受けて実施されました。

BGCI新理事長就任

2005年1月1日より、ジョアン・ワルムズリー男爵夫人がBGCI理事長に新しく就任することになりました。ワルムズリー男爵夫人の豊富な経験が、BGCIに大きく役



立つものと期待されています。御夫人は、生物学の学位を持ち、教育者としての専門的教育も受けており、広告代理店の経営者として活躍した後は、保健と教育の分野で活躍してきました。現在、貴族院で自由民主党の教育(学校と幼少)担当広報官及び児童関係の「影の大臣」を務めています。

ワルムズリー御夫人は、5年間、BGCI理事長を歴任いただいたスザン・ワーナー伯爵夫人からこの役職を引き継ぐこととなります。ワーナー御夫人は、常に倦むことなくBGCIでのお役目に専心し、BGCIの活動における新たな側面と世界への開拓を先導していただきました。ここにBGCI職員全員から多大なる謝意を表します。



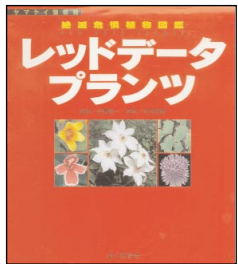
13c

13a/b: 環境ゲームに参加する教員 (BGCI)

13c: サルバドルで開かれたブラジル植物園会議の参加者 (BGCI)

13d: マンゴスチンを芽で識別 (BGCI)

書籍紹介



レッドデータプラント

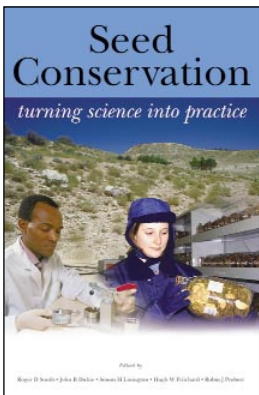
監修：矢原 徹一
写真：永田 芳男
2003年発行 719頁
出版：山と溪谷社
ISBN：4-635-06255-4

日本の絶滅危惧植物について重要な文献として上げられるのは、2000年に発表された日本のレッドデータブックと本書である。本書に収録されている873種は、すべてレッドデータブックに掲載されている。個々の植物は、それぞれの種類の専門家による幅広く詳しい植物解説と写真家による生息地の現況レポートによって紹介されている。写真はオールカラー、全体写真と超アップ写真の両方は、植物のより詳しい解説となっている。“植物たちのSOSが聞こえる!”というキャッチフレーズは、日本国内で注目をあびた。解説は日本語のみであるが、本書の質と写真の美しさは、国際的にも高く評価されるであろう。

定価：¥4,410 (税込)

Seed Conservation – turning science into practice

編集：R.D. Smith, J.B. Dickie, S.H. Linington, H.W. Pritchard, R.J. Probert
2003年発行 1,023頁
出版：英国王立キュー植物園
ISBN 1 84246 052 8



本書は、2001年に英国王立キュー植物園のミレニアムシードバンク事業主催で行われたワークショップの報告書であると共に、野生植物の種子保存に関する国際的な協力の賜物である。総括して56章からなる内容は、第一節：計画及び収集、第二節：処理及び試験、第三節：貯蔵及び利用、に分けられている。

本書は、今日の種子バンクにおける経験をまとめた実践的な内容の論文を多く含み、あらゆる種子バンク施設に必要な基本知識を提供する。特に新しい種子バンクの開発を手がける人には必須である。

販売元：
KewBooks.com, c/o Summerfield Books, Main Street, Brough, Cumbria, CA17 4AX, U.K.
Tel: +44 (0)17683 41577, Fax: +44 (0)17683 41687, ホームページ: kewbooks.com

定価：59.95英国ポンド(送料(日本 20.90英国ポンド)別)

EuroGard III Proceedings

Papers from the Third European Botanic Gardens Congress and the Second European Botanic Gardens Education Congress (BEDUCO II).
編集：E. Robbrecht, A. Bogaerts
発行：2004年 177頁
Scripta Botanica Belgica 29
ISBN 90 72619 60 9.

この要旨集は、第一章：植物園の業務、第二章：植物コレクションに関する研究、第三章：生物多様性、第四章：保全で構成されている。本書は有効的な資料であると共に、模範例、モデル、事例などの記録の保存版でもあり、今後の植物園活動の発展に大いに役立つものである。

販売元：
National Botanic Garden of Belgium, Domein van Bouchout, B-1860 Meise, Belgium.
Tel: +32 2 260 09 20, Fax: +32 2 270 15 67
メールアドレス: sales@br.fgov.be
ホームページ: www.br.fgov.be

定価：24ユーロ

中国語版 Darwin Technical Manual (ダーウィン・テクニカル・マニュアル)



翻訳：Jin Xiaobai, Shi Lei, Tang Yudan, Sun Hongmei, Xin Xia (中国科学院北京植物園)
出版：Henan Science and Technology Publishing House

問い合わせ：
Anle Tieu, BGCI China Programme Co-ordinator.
Email: anle.tieu@bgci.org

掲示板

NBIからSANBIへの移行

2004年9月1日付けで、国立植物研究所(NBI)は南アフリカ国立生物多様性研究所(SANBI)に変わりました。南アフリカの国立植物園は今後も、生物多様性をめぐるSANBIの広範囲な責任範囲の一部として管理、規制、維持されます。SANBIは2004年12月2日のプレトリア国立植物園で開かれた催しで、マルティヌス・ヴァン・シャルクウィク南アフリカ環境問題・観光大臣により、正式に発足しました。

別のニュースとして、南アフリカの環境問題/観光省は、特に南アフリカ北部を始めとする地域での収入を生む資本開発ならびに観光インフラの整備を目的として、SANBIに対して多額の予算配

分を行いました(3年間に660万ドル以上)。また、南アフリカ植物学会とツォゴ・サン・カジノズは、SANBIのスポンサーとして資金援助を行いました。さらにラフォード・モーリス・ラング財団からの潤沢な寄付もあり、2005年半ばには、新しい生物多様性保全センターがキルステンボッシュ国立博物館敷地内に完成する予定です。

詳細：www.sanbi.org

オーストラリア、キングズ公園のステイーブ・ホッパー園長が退任

オーストラリアのキングズパーク植物園のステイーブ・ホッパー博士が、12年間の園長/役員代表の役職に終止符を打ちました。ホッパー博士は世界的に認められる植物園と公園を創設し、生物多様性保全を促進するという、植物園・公園局の構想作りに尽力しました。また園長時代には、キングズパーク植物園に数々の大規模な改善策と新たな設備を導入しました。また博士は、キングズパーク友の会の強力な支持者でもありました。そもそも1993年に友の会が発足したのも、彼の支援の賜物と言えます。ホッパー博士はキングズパークを退任後、西オーストラリア大学植物保全生物学部教養課程の教授に就任します。キングズパーク友の会のメンバーが執筆したホッパー博士に関する記事が、インターネットのサイト(www.bgci.org/news)で御覧になれます。



応用植物保全の検定実習プログラム

絶滅のおそれのある植物の研究及び保全に使用される自然保護の原則と技法に関する実習プログラムが、2005年6月に米国コロラド州デンバーで開催される予定です。このプログラムは、デンバー植物園が米国植物園と共同で主催し、植物保護センターが中心となって行われます。

詳細：www.appliedplantconservation.org

BGCIの会費

会員の皆様はすでにお気づきのことと思いますが、BGCIは長年、会員の会費を変えずに継続してきました。しかし昨年からのユーロ、米ドル、英ポンドの相対的価値の激変に伴って、2005年1月1日より米ドル立ての会費額を変更せざるを得なくなりました。英ポンドとユーロ立ての会費額はこれまでと変わりません。詳細については15頁をご参照ください。BGCIは、今後も会員の皆様にご満足いただけるサービスの提供を心がけていきたいと思っています。多くの方の会員の更新と新規加入の申し込みをお待ちしています。

植物園自然保護国際機構 (BGCI) 会員登録案内

BGCIは、1987年に設立された会員制度の国際機関であり、植物保全に関する国際的なネットワークの組織立てを目的とする。現在の会員数は、115カ国の525団体以上に及ぶ。会員は協力して、「植物園の保全活動に対する国際アジェンダ」と「世界植物保全戦略」の実践に励んでいる。

団体(植物園)会員としての特典は下記の通りである。

- 国際的な植物保護ネットワークへの参加
- 植物園運営に関する各資料(入会バック)*
- 定期刊行物
 - Cuttings(英語):季刊ニュースレター
 - BGjournal(英語):植物園の国際情報誌(年2回)
 - Roots(英語):環境教育専門誌(年2回)
- BGCI主催国際会議への優遇的案内と参加費の割引
- BGCIの専門的サポートサービスおよび情報提供

団体会員の種類と年会費(¥)		英ポンド(£)	米ドル(US \$)	日本円の目安
A	BGCI 賛助団体会員	5,000	7,500	1,000,000
B	団体会員(予算規模:3億円以上)	600	940	120,000
C	団体会員(2~3億円)	440	660	88,000
D	団体会員(1~2億円)	300	440	60,000
E	団体会員(1,300万~1億円)	160	220	32,000
F	団体会員(1,300万円以下)* *(通常は発展途上国の団体に適用)	75	110	15,000

その他の会員

その他の会員については、会員の種類によって異なった特典が得られる。基本となる特典は、下記の通りである。

- 定期刊行物
 - Cuttings(英語):季刊ニュースレター
 - BGjournal(英語):植物園の国際情報誌(年2回)
 - Roots(英語):環境教育専門誌(年2回)
- BGCI主催国際会議への優遇的案内と参加費の割引

法人会員の種類と年会費(¥)		英ポンド(£)	米ドル(US \$)	日本円の目安
G	ゴールド法人(定期刊行物三種 他)	5,000	7,500	1,000,000
H	シルバー法人(定期刊行物三種 他)	1,000	1,500	200,000

個人会員の種類と年会費(¥)		英ポンド(£)	米ドル(US \$)	日本円の目安
J	本会員(定期刊行物三種 他)	160	220	32,000
K	準会員(CuttingsとBGjournal 他)	35	50	7,000
L	準会員(CuttingsとRoots 他)	35	50	7,000
M	友の会(オンラインによるCuttings) 上記日本円換算額(2005年1月現在の目安)は、参考として引用しています。	10	15	2,000

*植物園運営に関する資料(入会バック)の内容:

下記の申込書をご記入の上、下記まで郵送またはFaxにてお送りください。
BGCI, Descanso House, 199 Kew Road, Richmond, Surrey, TW9 3BW, UK
Fax: +44 (0) 20 8332 5956

お支払い方法は、Botanic Gardens Conservation International 宛の小切手の郵送、BGCIホームページ(www.bgci.org)またはクレジットカード(VISA/Mastercard)があります。
尚、日本国内の郵便局でもお支払いが可能になりました。詳細はBGCI日本事業担当 老川順子(メールアドレス: Junko.Oikawa@bgci.org)までお問い合わせください。

植物園自然保護国際機構(BGCI)の会員として申し込みます。

名前
 住所
 電話番号
 Fax
 メールアドレス
 ホームページ

会員の種類(記号) 年会費額
 クレジットカード番号 クレジットカード有効期限
 ご署名 お名前(ローマ字書き)

BGCIに寄付します。 金額

ご送付いただくすべてにお名前(または貴団体の名称)をはっきりとご明記ください。

この冊子の出版は、香港上海銀行金融グループ(HSBC)、アースウォッチ(Earthwatch)、世界野生保護基金(WWF)、植物園自然保護国際機構(BGCI)のパートナーシップ事業「自然への投資」によるものです。

Investing
in Nature



BGCI

Plants for the Planet

植物園自然保護国際機構

**Botanic Gardens
Conservation International**

Descanso House, 199 Kew Road,
Richmond, Surrey TW9 3BW, U.K.

Tel: +44 (0)20 8332 5953

Fax: +44 (0)20 8332 5956

メールアドレス: bgci@rbgkew.org.uk

ホームページ: www.bgci.org.uk

この季刊誌は100%再生紙を使用しています

ISSN 1811-1467

Invitation to BGCI's 6th International Congress on Education in Botanic Gardens



BGCI

The University of Oxford Botanic Garden, UK

10th–14th September 2006

ACHIEVING SUSTAINABILITY: IDEAS AND SOLUTIONS
PUBLIC AWARENESS OF PLANTS
EDUCATION FOR ALL: WORKING WITH CHALLENGING AUDIENCES
REFLECTION ON PRACTICE
THE UNIVERSITY OF OXFORD BOTANIC GARDEN

THE NATURE
OF SUCCESS
SUCCESS FOR
NATURE

Kew
PLANTS PEOPLE
POSSIBILITIES

To register your interest in the congress visit
www.bgci.org/educationcongress

